



# お困り事にすぐさま駆けつける 「まちの電気屋」の使命と矜持

■一般家庭を中心に、店舗や工場、高層ビルまで、あらゆる電気空調工事や電気通信工事を手掛けている「ミナト電通システム」。長年「まちの電気屋さん」として、大小様々な地域のニーズに寄り添い続けてきた。本日は、そんな同社をジャガー横田さんが訪問。二代目・飛田社長にインタビューを行い、事業に懸ける想いを伺った。

—こちらの事務所はデザイン性が高くオシャレですね！ 電気工事業者さんとしては、珍しいように思います。

ありがとうございます！ この事務所は今年1月に完成したばかりなのですが、細部までこだわってスタイリッシュに仕上げました。これは、当社の施工で大事にしていることでもあるんですよ。たとえば自宅の配線一つとっても、配線が見える位置に引かれるのと、見えない

ように這わせるのでは、全く印象が違いますよね。いかに見栄え良く、スタイリッシュな仕上がりにできるか。そして、いかにお客様のイメージを裏切らず、ニーズに応えた仕事ができるか。これが当社の大事にしているモットーです。

—この事務所を見れば、間違いのないお仕事をされていることが窺えますよ。御社は創業から長いのですか。

そうですね。当社は私が中学1年生

の時に両親が立ち上げた会社なんです。2010年に父が亡くなるまではずっと、両親2人で個人事業主として続けてきました。父が亡くなった後を私が引き継ぎ、現在に至っています。

—ご両親が事業をされている姿を学生時代から見てこられたわけですね。早くから後継は意識されていたのですか。

それが、学生時代は全く考えておらず、私は美容師の道に進んだんですよ。父は昔気質な人だったので美容師に猛反対でしたが、母が賛成してくれて、16歳から美容師をしていました。ただ、自分には肌に合わないところもあって、20歳の時に転職を決意。それから10年間は『東海発電所』で働いていたんです。その間も家業を時々手伝ったりはしていましたが、当社に本格的に入ったのは父が亡くなった後でした。ただ、父に言われて発電所時代に電気工事士の資格は取っており、それが今の仕事をする上で大きな力となりましたね。

—先代であるお父様は、どのような方だったのですか。

とにかく真面目で仕事一辺倒の人でした。朝早くに家を出て、夜遅くに帰ってきて、仕事をしている姿しか記憶にないぐらいですね。当社は「まちの電気屋さん」なので、お客様のご自宅に訪問させていただくことが多いのですが、父はいつ何ときでもお客様から連絡が入れば、すぐさま駆けつけていました。夜12時に電話が来て家を出ることもあったんで

## 二代目として継承するもの

■「夫が亡くなった時、この事業を畳もうかとも考えました」。そう話したのは飛田社長のお母様だ。しかし、そんな時にお客様や周囲の方々から存続を願う声が多く寄せられたという。そして、「父と母の想いが詰まった家業を潰したくなかった」と、社長も後継を決意した当時の想いを振り返る。夫婦二人で苦労しながら続けてきた事業は、いつしか多くの人にとってなくてはならない存在に成長していた。

■そんな両親の後を継いだ社長は、「今でも技術では父を越えられていません。しかし、私だからこそできることもあります」と語る。職人気質だったお父様からは、技術面の器用さを受け継いだ。一方で、周囲の人々と良い関係性を築くコミュニケーション力はお母様譲りのもの。その両方の力を駆使して、社長は家業を法人化へと導き、社員を増やして会社の成長も牽引してきた。

■「これからも自分なりに、両親が築いたこの家業を成長させていきたいです」。お客様や周囲からの信頼を引き継ぎ、両親から大切な資質も受け継ぐ社長なら、今後も二代目として『ミナト電通システム』をさらなる飛躍へと導いていってくれることだろう。



代表取締役  
飛田 寛之

す。そんな父の姿を昔から見てきて「大変だな」と思っていました。後を継いだ以上は私も同じように、呼ばれば迅速に駆けつけるようにしています。ただ、私は母が苦勞する姿も見てきたので、皆が家族の時間も大切にできるよう、作業時間の短縮にも取り組んでいます。

—お父様の姿勢を受け継ぎつつ、会社としての体制も整えられていると。しかし、お父様もおられない中で、どのようにして技術を磨かれたのですか。

父のころからの取引先の方々に教わり、また見様見真似で技術を学んできました。そこは本当に、周囲の皆様に感謝ですね。後を継いだ翌年には東日本大震災がありました。当時はまだ素人同然だった中、復旧関係の電気工事の仕事が忙しくなり、とにかく何とか現場を回さなければいけない。当初はスキルの高い職人さんたちを集め、私は現場を統括する立場で仕事をしていましたね。

—職人さんはこだわりが強い方も多いですが、まとめる苦勞もあったのでは？

そうですね。ただ、その中では美容師時代に培った力が役に立ちました。美容師は一人ひとりのお客様に合わせて、言葉を選びながら会話をしていきます。その経験が、今は職人さんや社員とのコミュニケーション、あとはお客様対応や営業でも活かしているんですよ。人生、役に立たないことはないものですね。

—先ほど社員の皆様ともお会いしましたが、活気があって良い雰囲気を感じま

した。それも飛田社長が作り上げられてきたものなのでしょうね。

ありがとうございます！ 私が家業を引き継いでから、法人化を果たし、社員も少しずつ増やしてきました。まだ少数の会社ではありますが、今は良い関係性が築けているかなと思いますね。ただ、今は多くの協力業者さんにも手伝ってもらっており、技術面では申し分ないのですが、自社の社員ではないので統率が取りにくいのも事実です。当社のスタイルや方針を皆で共有し、よりお客様のニーズに応えた良い仕事を手掛けていくためにも、今後は自社の若い社員を増やしていきたいと思っていますね。

—今も社長は経営の傍ら、現場にも立たれているのですか。

もちろんです。私は元々身体を動かすのが好きで、いざこの仕事をやってみて「身体を動かして物を作る」という技術職の楽しさや魅力を肌で感じました。昨今はコロナ禍によってリモートワークも増えていますが、外に出て身体を動かす仕事は健康的ですし、現場で働く人がいないと社会だって回りません。そんな技術職を魅力的に感じてくれる若い人材に

集まってもらい、皆が現場で楽しく働く会社でありたいですね。身体を動かすことが好きな人には、「ぜひ一緒に働きましょう！」と伝えたいです。

—私も業界は違いますが、身一つで仕事をしてきました。デスクワークが人気な今の時代ですが、我々のような仕事にも注目が集まってほしいですね！

本当にそうですね。当社の Web サイトも立ち上げましたので、今後は技術職の楽しさや魅力をさらに発信していきたいです。認知度を高め、若い人材を集めて、当社をより成長させていきます！

ただ、これから会社が大きくなっていっても、「まちの電気屋さん」であり続けたいと思っています。規模の大きなお仕事を任せさせていただくことも増えてきましたが、地域の細々とした仕事も同じように大事にし続けたい。震災の時はこの地域で復旧関連の仕事をして、お金の代わりに農作物や魚をいただくことができました。当時のことは今でもよく覚えています。そんな風に今後も地域に根差し、人と人の温かなつながりを大事にし続ける会社でありたいですね。

(2021年3月取材)



## ゲスト ジャガー横田 (女子プロレスラー・タレント)

家業を引き継いだ当初は、いかに技術を磨き、お客様のニーズに応じていくか、不安や悩みもあったという飛田社長。それでも努力を重ね、今ではお客様・職人さん・社員さんなど、周囲からも信頼を集める立派な経営者になられています。今の時代、「人とのつながり」は失われつつありますが、そこも社長は大事にされていて好感が持てましたね。今後も応援しております！

## 株式会社 ミナト電通システム

茨城県ひたちなか市幸町 2-4

URL : <https://minato-dentsu.com>